



せいひ会だより

2009年(平成21年)

2月1日発行

<第106号>

社会福祉法人せいひ会

http://www.seihikai.jp/



新春恒例の「歌会始の儀」

1月15日に 皇居・宮殿の「松の間」で開かれた

生

今年の勅題は「生」

天皇陛下

生きものの織りなして生きる様みつつ皇居に位みて十五年経ぬ

皇后さま

生命あるものかなしさ早春の光のなかに揺り蚊の舞ふ

12月のできごと

1日 ~ 初詣(全事業所)	8・22日 書道教室(風和)
生長の家に行ってきました。	19日 陶芸教室(通所)
7日 鬼火たき	13~23日
10日 新年会(せいひ会)	就労体験学習
10日 誕生会(通所・元亀)	大村の虹の原養護学校から
11日 正月遊び(風和)	27日 通報訓練(元亀)
7・21日 書道教室(元亀)	31日 消火訓練(風和)

1月の行事

3日 ~ 節分(豆まき)
(各事業所)
14日 誕生会(通所・元亀)
12・26日 書道教室(風和)
4・18日 書道教室(元亀)
9日 陶芸教室(通所)

☆お誕生日おめでとうございます☆



今回は元亀の里・山崎 トン様にお話を伺いました。

大正5年、西彼町白崎に7人兄妹の4人目として生まれる。家は農業を営んでおり、米や野菜を栽培していた。小さい頃から弟や妹の面倒を見たり家の手伝いをしていたそうだ。「小さか頃は、あんまり遊んだ覚えのなかね」とのこと。

6年生で卒業すると奉公に出ることとなり、6~7年で奉公先を3件ほど回り畑仕事を手伝った。手作業ばかりで大変だったようだが、「体格はよかほうやったけん、他人よりそがんきつうはなかったって思う。体の小さか人達は大変やったろうね」と話された。15歳の頃、奉公先で米1俵(60kg)を担いだら持って帰っていいと言われ、「重たかったばってん、ヒョイと担いだらびっくされた。そんま貰うた、はっはっは」そうだ。

20歳の頃西彼町宮浦に嫁に行ったそうだが、「好いとるも何もあるもんね、猫ば貰われるごとして嫁に行ったとばい」と笑われた。嫁ぎ先は農業で生計を立てていたが、夫は間もなく招集を受けビルマに行ったため家を守ることとなった。数年経って夫は帰ってきたが「仕事はちゃんとしよったばってん、魚釣りや夜は酒飲みで酒癖の悪うして大変やったばい」と振り返られていた。

現在、元亀の里に入所中。毎朝リハビリ室に来ては新聞を読んだりリハビリに励まれている。「今の世の中は難しゅうてよう解らん、変な事件の多かね」「昔はね、何でも嫌って言われんやったけん我慢してばっかやった。今の人達は好いたごとされてよかね」とのことだが、我慢を知らないことを懸念されていた。また「昔の話しばしても、今の若っか人達には何のことも解ってもらえんけん話してもいっしょ」「思うところは色々あるばってん言わんごとしとる」とのこと。

いつもニコニコしながら、「面白いな〜、楽しいな〜」と言いながらあっち行ったりこっち行ったりと歩いておられる。「歳も取っとるし、いろいろ考えんでてれーっとしとくとくがが一番よかばい。はっはっは」と陽気に話されていた。



陽気なトンさんでいて下さい。お誕生日おめでとうございます。



Vitality Space

バイタリティー・スペース

「Vitality」とは、生命力・活力・活気・元気・持続力等の意味があります。せいひ会を利用される皆さんの活動にはこのバイタリティーの力にあふれています。その活動を紹介するコーナーです。

うたの時間

雪日守り
思い出しては
佐かされる
亡き恋し
渡し舟の歌
平田 イエ

雪ふりて
幼きころが
懐かしい
谷川 エツ

日あたりを
離れさらずに
いつまでも
本本 誠一

雪舞いて
高らかにひびく
太鼓の音に
獅子踊り狂いし
新年宴会
竹下 晶子

獅子・舞う・新年会



1月10日。せいひ会の新年会を風和の里、ふくろうホールにて行いました。今年も地元さいかいいうず潮太鼓の皆さんの力強い太鼓で始まりました。めでたい獅子も恒例となり、お賽銭片手に「頭」を構えている様子。長寿・健康を願って獅子に甘噛みのおねだりです♪今年は、インフルエンザや嘔吐下痢が懸念され、参加者が少なかったのですが、参加された方々からの盛大な拍手と共に新年をお祝いいたしました。

正月遊びの定番?



皆さん、正月の遊びと言えば何を思い浮かべますか?

1月のレクリエーションは、カルタやすごろく、凧づくりなどを楽しみました。写真は福笑いを楽しんでいる様子です。かわいい顔が完成するかしら?

鬼火焚き



「おんの〜♪ほね〜♪」
「おんの〜♪ほね〜♪」
竹が焼ける「ばちばちっ」という音と共に聞こえてくる掛け声。お正月飾りを投げ入れては、手を合わせています。鬼火焚きが終わったら、あったか〜いぜんざいをいただきました。

ケアマネの独り言

《おいしいお酒》

今月は医療関係者と飲む機会が何度かあり、「おいしいお酒」を飲みながら「おいしい料理」に舌鼓。会話という「たあいもない話」から「仕事の話」までいろんな話で盛り上がった。酔ってくるとお互いに「仕事の悩み事」が多かったが、その中で論争になったのが『生活か命か』。この『生活か命か』の話になるといつも福祉関係者と医療関係者での意見が分かれて「激論」になる。自分は福祉関係者であるため『生活ありきの命』だと熱弁を振るう。しかし医療関係者は『命ありきの生活』だと言い張る。自分の持論は「生活とは生き活きと生きることであり、命が多少削れても楽しい日々を送ってほしい。いや、送るべきである」である。一方、医療関係者は「お前は生死の境目に立たされた患者さんの本当の痛みや痛みを知らないからそんなことが言える。命がなくなれば生活は存在しない」と涙ながらに持論を展開した。第三者的に見ていた他の知人達が割って入るぐらい二人はヒートアップ。少し落ち着き、時計に目をやると完全に「日」が変わっていた。冷静に考えると「どっちが正解」ではなく、「どっちも正解」であり、どちらの観点を持つかは人それぞれである。翌朝、当然のごとく二日酔いであったが、『生活と命』を本気で語り合える『仲間』がいることの嬉しさがこみ上げてきた。人間、【お互いの心のヒダで語り合えること】がいかに大切であるか。また、そんな仲間がいることの幸せを噛みしめた今月でした。それにしても「呑みすぎた〜…!!」

編集後記

今年の歌会始のお題「生」。私も少し考えてみました。

目も開けず
生きる鼓動を
探しつつ
伝えたい言葉に
胸が疼える

とても大きなお題です。ね。「生」という大きさとか重さとか、難しさとか…。

来年のお題は「光」だそうです。9/30消印有効。投函してみませんか? (佳)

楽

神近ツタ

元龜 神近ツタ

壽

濱保

通所 濱 保

楽

山本一枝

通所 山本一枝

玉雪

木村ツタ

丘の家 木村ムツ子

成人

柴原トミ子

元龜 柴原トミ子

誠実

河野

風和 河野ミエ

一月

タキ

元龜 藤本タキ

寒中

今井サヨ

風和 今井サヨ

光輝新

二ノ坂喜國

元龜 二ノ坂喜國

夢中

谷川エツ

風和 谷川エツ

実行

岩崎和子

風和 岩崎和子

書くべからず
留まじや
見ること大事
日を肥やせ
中澤

風和 中澤初子